

6年B組	ソドレミ・ミラシドで始まる音楽、大集合！	江田 司
------	----------------------	------

1 単元について

(1) 学習材「ソドレミ・ミラシドで始まる音楽」のもつ特性及び価値

音階の1オクターブの中に12の音がある。12の音でできた1つの旋律に、どの音も1回だけ使うとしたら、約4億8千万種類もの旋律ができる。これに和音、音色、音符の長さの違いを付け加えていくと、その多様さは、天文学的な数字にまでなる。もとは、「たった12の音であるのに！」である。数学でいうところの順列・組合せの妙である。(注1)

一見単純に見える「ソドレミ・ミラシドで始まる音楽」にも、数のマジックが存在する。続く音の配列のみならずリズムなどの変化によって、まったく印象の異なる曲が生まれる。事前調査の結果、短期間のうちに500曲近い「ソドレミ・ミラシドで始まる音楽」が見つかった(詳しくは、研究発表会の当日資料参照)。教科書教材、ポップス、民謡、さらには映像資料が豊富な管弦楽作品やバレエ音楽、器楽曲を含むクラシックまで、時代を超えて、国・地域を越えて、ジャンルを越えて「ソドレミ・ミラシドで始まる音楽」を確認したのである。また、音の動きそのものに焦点を当てるところから、「しゃぼん玉」と「世界で一つだけの花」(あるいは「TSUNAMI」)のように、教室で行われている音楽と子どもたち(や私たち)の身の回りに日常溢れている音楽との接点を、驚きを持って実感できるのである。これらの意味から、本学習材のもつ特性は、万人に受け入れられる《多様性》であり、その価値は、様々な音楽を繋ぐ《統合性》にある。

(2) 期待する子どもの学びから

本単元では、「ソドレミ(長調)・ミラシド(短調)で始まる音楽」を学習材に、《①気づき、②集め(調べ)、③比べ、④味わい、そして、⑤表現する》5つの活動ステージを用意した。

本単元で願う子どもの音楽的な育ちは、次の4点である。すなわち、①様々な曲で2種類の4つの音の進行を何度も聴き重ねていくうちに、調(長調・短調あるいは移調)による表情の変化を感じ取ることができる。②2種類の4音にたいするソルフェージュ(読譜力・聴音能力・表現力・音楽理論などを養う、音楽の基礎教育の総称)力を育むことができる。③開始4音をたどることによって、様々なジャンルの音楽に共通する音組成があることに気づき、感性豊かに音楽を聴く力を付ける。④最初の2音(ソノド→ソノド)の転回に気づくことで、新たな曲想(例:教科書教材「ラバース・コンチェルト」、白鳥の湖「情景」など)が生まれることを感じ取れる。

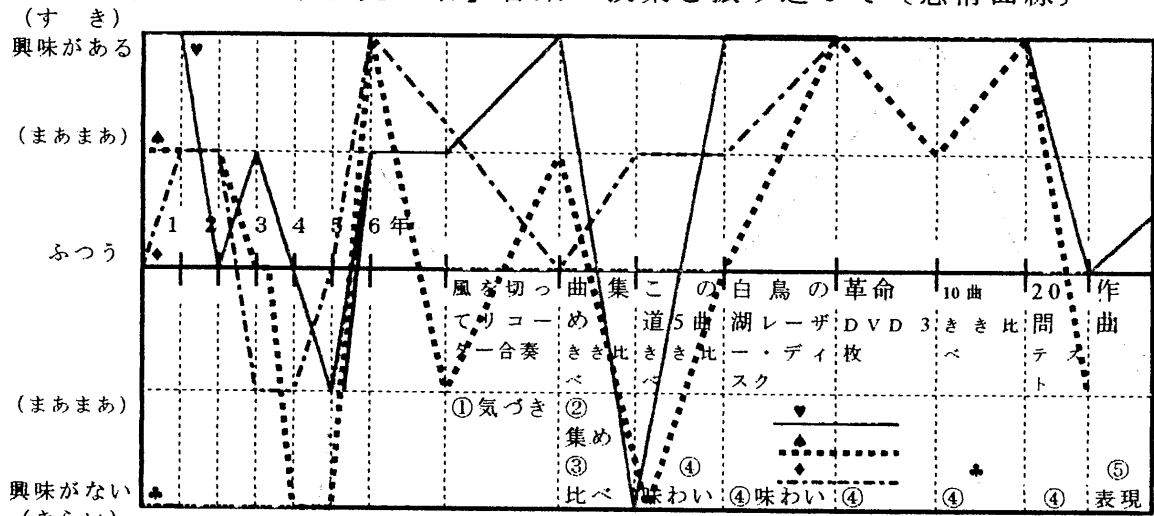
なお、これらの効果を最大限に引き出すために、音源については、①音の立ち上がりが際だっている。②大きな音(を出すことが可能)である。③(CMや既習曲など)先行経験がある。④(指導者や友達であるとか)身近な人が演奏している。⑤実際、音楽を聴いたり演奏したりするだけでなく、「見る」活動を加えることで、学習への意欲を引き出す。等に留意し選んだ。

(3) 単元の目標

- 調による表情の変化を感じ取って音楽を聴くことができる。
- 開始4音をたどることによって、様々なジャンルの音楽に共通する音組成があることに気づき、その音楽に親しむことができる。
- 音色の特徴を生かして楽器を演奏したり、呼吸や発音の仕方を工夫して豊かな響きのある、自然で無理のない声で歌うことができる。
- 曲の構成を工夫し、簡単なリズムや旋律をつくって表現できる。

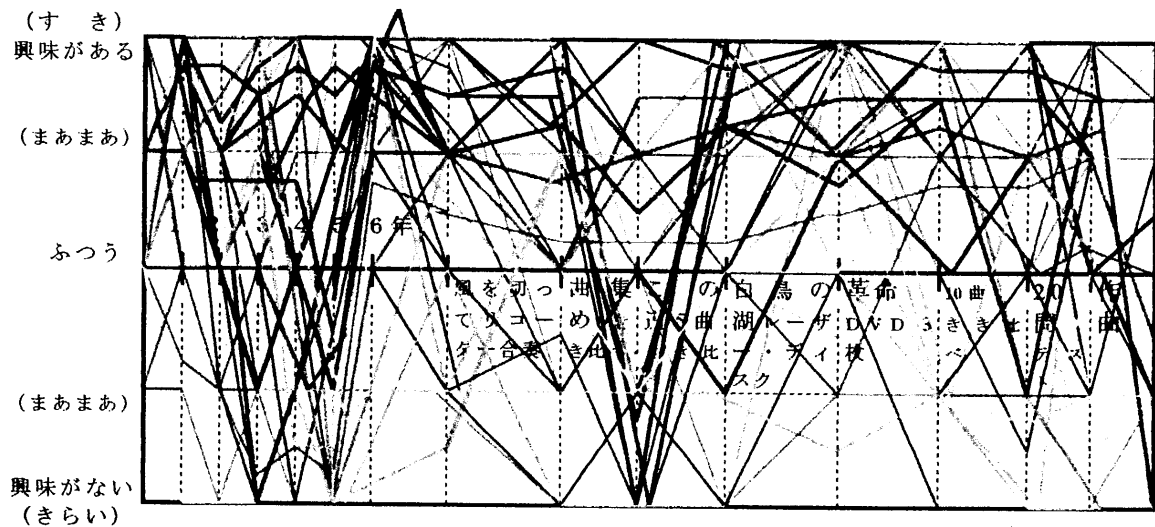
2 実践の考察【全16時間】

【6年B組着目児4名】音楽の授業を振り返って〔感情曲線〕



【感情曲線の書き方】点線のところにそれぞれ点を打って、あとは線をつなぎます。大きく変化したところは理由を書きます。

《参考》【6年B組全員】音楽の授業を振り返って〔感情曲線〕



*本単元授業での感情（関心）を、単元終了時に記入させたものである。本学級の子どもたちが多様な関心を持つことをあらわしながらも、多少の傾向性を孕んでいることがわかる。すなわち、映像教材を使用した【④味わい】の活動では、かなりの乱高下がありながらも、おおむね関心を抱いていること。「この道」や20問テストの聴き比べ、作曲ではかなり抵抗を示したことである。

(1)「ソドレミ・ミラシドで始まる音楽」発見！（第1次）についての考察

①気づく【1時間】（☆興味のある曲を見つけることができるか）

合奏曲「風を切って」は、9月から約1ヶ月間取り組んだ。続いて意図的にリコーダー二重奏曲「失われた歌」を紹介したところ、開始部分（ミラシドの4音）が共通していることに子どもたちは気づいた。このような曲は他にもあると、予め用意しておいた「チゴイネルワイゼン（サラサーテ）」の冒頭を聴かせてみた。ほとんどの子どもたちが知っていて「わーっ！」と声が挙がった。さらに「五木の子守歌（熊本県民謡）」「夢のあとに（フォーレ）」「交響曲第5番『革

命』第4楽章（シヨスタコーヴィチ）」などの冒頭と聴き比べさせてみた。「革命」での手応えが大きく、とりわけ着目児 ♠ が、これまでに見せなかった積極性を示し「もう一度聴きたい！」と発言したほどだった。他のクラスでも同様の反応が見られたことから、この曲の映像をいくつか取り寄せ教材化することにした。次に、長調では「ソドレミ」の4音となることを示し、子どもたちがよく知っている曲として、「たなばたさま」「茶つみ」「赤とんぼ」「しゃぼん玉」「世界に一つだけの花」などがあることを紹介した。「世界に一つだけの花」は子どもたちが大好きな曲で、「ソ」に続く「ドとレ」が連打されることで、言われてみて初めて「ソドレミ」で始まる音楽だと気づく子どもたちもいた。それまでどちらかといえば硬い表情で聴いていた子どもたちが、「こんな曲は、案外、自分たちの周りにもあるぞ！」と興味をわかせたようだった。

②集める・調べる〔2時間〕（☆「どこにあるか」「どこにないか」を把握しているか）

そこで、修学旅行を挟んで約1週間、子どもたちに「ソドレミ・ミラシドで始まる音楽」を探させてみることにした。ここで大活躍をしたのが着目児 ♥ である。はじめは目立たなく、どちらかといえば消極的であったが、集める・調べる活動が始まるや、粘り強く家中のCDを聴いたり楽譜を探して、18曲をメモして持って来た。音楽教室後ろの掲示板に、見つけた曲をメモに書いて貼り付けていくことにしていたのだが、ブラームスの弦楽六重奏曲第1番まで書かれていたのにはさすがに驚いた。この時点では、音楽的経験や音楽環境的な差から、子どもたちのフィールドワークにはかなりの個人差があった。曲が集まるたびに一つずつ聴いていった。

第1次終了時に、着目児4人が書いた感想を紹介する。

- ♠ 調べなかった。シンコペティド・クロックが気に入った。（聴いていると）意外にこんな曲が多い。
- ♥ CDとか、ピアノの楽譜（コスモスシューレ、パッサリ集）を調べた。意外に少なかった。全体的にはいっぱいあったけど、1曲もないCDもあった。ミラシドから始まる曲は短調で、ソドレミから始まる曲は長調だった。ワルツ（ショパン）シークレット・ベース、マフィンマンが好き。
- ▲ 古い本を調べた。授業でも聴いたスイス民謡の「かっこう」が好き（ソドレミ）。始まりが同じだから感じたことも同じ。
- ◆ 歌集に「ピクニック」があった。ソドレミで始まる「世界に一つだけの花」が好き。この音で始まるいい曲があったなんて知らなかった。ハンガリー舞曲第5番が大好きなので聴いて調べたが、ここにはなかったのが悔しい。

(2) いろいろな方法で「ソドレミ・ミラシドで始まる音楽」に迫る！（第2次）についての考察 ○比べる・味わう〔11時間〕（☆「感じ」や「気づき」を大切にしているか）

- 【学習の流れ】①「描画法」で「赤とんぼ」の世界に迫る〔1時間〕②「教室楽器法」→「シンコペティド・クロック」〔1.5〕③「問題づくり法」「聴き比べ法」→5人のソプラノ歌手で聴き比べる歌曲「この道」〔1〕④「映像で見る」→「交響曲第5番＝短調『革命』第4楽章」〔2〕⑤リコーダー合奏→「ラバース・コンチェルト」〔2.5〕⑥「課題：このバレエ上演するのにいくらかかる？」→「白鳥の湖」全曲＊映像〔2〕⑦「好感度フィーリング法」→選抜10曲・20曲を聴き比べる。聴き分けテストも兼ねる〔2〕

第2次全般を通して、子どもたちは楽しみながら実によく活動をした。「革命」では3つの映像を用意した〔注2〕ことや、キーロフバレエによる「白鳥の湖」全幕（ダイジェストで）視聴するなど、今年度、音楽科提案したように「見る・聴く」活動を取り入れた。また「好感度フィーリング法」と名付ける、選抜10曲をそれぞれ聴いて「すき・きらい・ふつう」と自分の好みを表す「感じ」を中心とした聴き方と、始まりが「ソドレミ」なのか「ミラシド」なのかを判別する「気づき」を中心とした聴き方の部分に分けてみた。聴き比べの際には、日頃、音楽教室では聴かれないポップス系の曲も扱い、意欲化を図った（使用曲は別表）。

「気づき」を中心とした聴き分けの結果は次の通りであるが、これらをもとに、学習課題「どうすれば、ソドレミの音楽とミラシドの音楽を聴き分けることができるのだろうか」をたて、これら感じの違いは、第4番目の音の聴き取りにあることに気づかせるとともに、再度、今まで聴

いたり歌ったり演奏したりしてきた曲を一つずつ調べてみた。

【「ソドレミ・ミラシド」20問】で使った曲

- ①「世界に一つだけの花」(歌:スマップ) ②「茶つき」(文部省唱歌) ③「失われた歌」(教科書6年器楽教材) ④「風を切って」(教科書6年器楽教材) ⑤「PRIDE (プライド)」(歌:今井美樹) ⑥「かっこう」(スイス民謡:プラスアンサンプル) ⑦「しゃぼん玉」(文部省唱歌) ⑧「地上の星」(中島みゆき) ⑨「この道」(教科書6年鑑賞教材) ⑩交響曲第5番「革命」第4楽章(ショスタコーヴィチ作曲) ⑪「シンコペイティド・クロック」(アンダソン作曲) ⑫バレエ音楽「白鳥の湖」から「情景」(チャイコフスキー作曲) ⑬チャコの海岸物語(サザンオールスターズ) ⑭「TSUNAMI」(サザンオールスターズ) ⑮「COLORS」(宇多田ヒカル) ⑯「スマイルアゲイン」(中山真理作曲) ⑰「ピクニック」(イングランド民謡) ⑱「チゴイネルワイゼン」(サラ=サーテ作曲) ⑲「弦楽六重奏曲第1番」第2楽章(ブラーム作曲) ⑳「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」第3楽章(モーツァルト作曲)

最初の【「ソドレミ・ミラシド」10問】で使った曲は、上の ⑬②④⑥⑦⑯⑱⑩⑭⑧⑫ (曲目順) です。

その結果、17.6ポイントの上昇がみられた。〔10問テスト1回目の正答率:69.2%
→ 2回目の正答率:86.8%〕

正答数(点)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1回目(人)	0	1	1	3	3	2	2	5	2	9	7
2回目(人)	0	0	0	0	0	1	4	1	10	5	14

【着目児における変化】*(カッコ)内は、20問テスト結果

着目児	♣	♥	♠	♦
1回目(点)	3	10	9	4
2回目(点)	9(16)*	10(19)	9(16)	9(14)

着目児♣♦については、向上が著しかった。その点については第2次後半の活動に積極的に取り組んでいたことがその原因であろうが、着目児として指導者の眼差しが常より多く注がれていたこともあながち看過できるものではないだろう。

(3) 表現とまとめ(第3次)についての考察

○8小節の旋律創作(まとめ)〔2時間〕 (☆音楽の決まりを守れているか)

当初の予定を変更して、四分音符「ミラシド」で開始される8小節フレーズの第3・7小節目を、穴埋め問題として出した。第4小節目は「ミ」、第8小節目は「ラ」と固定した(詳細略)。

3 今後の課題と展望

(いわゆる音階にある)音そのものへの着眼と、映像教材を取り入れた授業展開は、子どもたちをエキサイティングにした。音楽を本質的に感じ取らせるとともに意欲化を図るべく、音の運動性への実践的な検証と、DVDレコーダーを使った教材づくりを急務としたい。

4 実践研究テーマの設定

本単元の続編として、「ドレミファの世界、再発見! Part II」を予定する。

5 参考文献等

〔注1〕〔音楽の無限の多様性〕「バーンスタイン 音楽を語る」p.27~(レナード・バーンスタイン著、岡野 弁訳 1972年 全音楽譜出版社)

〔注2〕○タイトル:「ショスタコーヴィチ:交響曲第5番」エフゲニー・ムラヴィンスキー指揮、レーニングラード・フィルハーモニー交響楽団(ニホンモニター K.K. DLVC-I111) ○タイトル:「レナード・バーンスタイン(指揮者)の偉大なる遺産 Part II」ニューヨーク・フィルハーモニック管弦楽団(Sony LD 廃盤) ○タイトル:「指揮者が明かすシンフォニーの現場『オーケストラの鼓動』〔案内人〕指揮者 佐渡裕(見聞塾、ベネッセコーポレーション1998、VHSステレオ約79分 85PB05)」本番前のリハーサル映像。コンサートを前にした2日間の音づくりの舞台裏。演奏:新日本交響楽団。